

2026年6月23日

各位

公益社団法人 とくしま森林バンク
ENEOS 株式会社

とくしま森林バンクと ENEOS が森林由来 J-クレジットの長期売買契約を締結

公益社団法人とくしま森林バンク(以下、とくしま森林バンク)と ENEOS 株式会社(以下、ENEOS)は、森林由来の J-クレジット※¹に関する長期の売買契約(以下、本契約)を締結しましたので、お知らせいたします。

本契約に基づき、ENEOS は、とくしま森林バンクが実施する持続可能な森林管理を通じて創出される森林由来 J-クレジットを長期的に購入し、自社の温室効果ガス排出のカーボン・オフセットに活用します。両社は本取り組みを通じて、持続可能な森林整備・管理の推進、地域課題の解決、カーボンニュートラル社会の実現に貢献してまいります。

近年、所有者による管理困難な森林が増え地域の課題となっています。こうした森林が適切に管理されない場合、森林の公益的機能が低下するだけでなく、地域の環境保全や持続可能な林業経営にも影響を及ぼすおそれがあります。そのため、森林整備・管理を適切に行い、これを継続的に実施していく仕組みの構築が求められています。



とくしま森林バンクは徳島県内において市町や企業の支援を受け、関係団体と連携しながら、森林経営の受託や買取を通じた森林の集約化をおこない、持続可能な森林整備・管理を推進する団体であり、全国初の取り組みを展開しています。管理が困難な森林を引き受け、長期的な視点で整備・保全を行うことにより、豊かな森林を次世代へ継承することを目指しています。また、本取り組みで創出される森林由来の J-クレジットを新た

な収入源とし、その収益を森林整備・管理に再投資することで、持続可能な事業運営の確立とさらなる拡大を図っています。

一方、ENEOS グループは、2030 年度までに Scope1、2^{※2}の温室効果ガス排出量を 2013 年度比 46%削減する目標の達成に向け、J-クレジットをはじめとする環境価値の活用を含む多面的な取り組みを進めています。あわせて、地域と連携しながら、森林由来 J-クレジットの活用を通じた国内森林資源の保全にも取り組んできました。本契約により、ENEOS グループの事業活動に伴い排出される温室効果ガスのオフセットへ活用されるとともに、とくしま森林バンクの安定的な収益確保に貢献し、森林整備・管理への継続的な投資を可能とする重要な基盤となります。

両社は今後も、林業分野とエネルギー業界の連携による新たな価値創出を進め、持続可能な森林整備・管理、地域社会の課題解決、カーボンニュートラル社会の実現に貢献してまいります。

【とくしま森林バンクが進める適切な森林整備・管理】



※1 J-クレジットとは、省エネルギー設備の導入や再生可能エネルギーの利用による CO2 などの温室効果ガスの排出削減量や、適切な森林管理による CO2 等の吸収量を「クレジット」として国が認証する制度。本リリースでは、適切な森林管理によるクレジットを、森林由来のJ-クレジットと称する。

※2 Scope1:事業者自らによる温室効果ガスの直接排出(燃料の燃焼、工業プロセス)

Scope2:他社から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出

以上

<本件に関するお問い合わせ先(報道機関の方)>

公益社団法人 とくしま森林バンク

ENEOS 株式会社 広報部メディアリレーショングループ

088-661-6280 mail@tfbank.or.jp

03-6257-7150 pr@eneos.com